という当たり前のことを非日常として

と「いる」ことができる。 ことはあまりない。でも、

食事をする 街中にずっ ことができない。一方、京都で「する」 代わり、なんとなくその街に「いる」 ことはたくさん設計されている。その いと思えない。アブダビでは、「する」 しかし、なぜかその街にずっといた

## ネット社会という船に乗って

B

58

「する」ことのあるアブダビ、「いる」ことができる日本

ワーナーブラザーズのテーマパーク がある。さらにはフェラーリワールド、 アブダビには、なんとルーブル美術館 仕事で中東のアブダビに出張した。

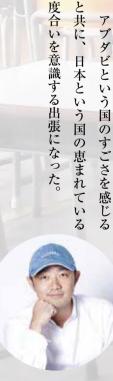
施設が屋内だ。巨大なテーマパークが い。圧倒される。 そんな豪華な施設を作ることができな 全て屋内に収容されている。 作られているのだ。暑さ対策で全ての 文化的施設が、オイルマネーによって ビに旅行する。その人たちが楽しめる ヨーロッパの人たちが、冬にアブダ 日本では

## 佐 渡島庸平

文

text by Yohei Sadoshima

小さな創意工夫で、今自分が暮らして 1億2000万人かもしれない。しか どれくらいだったのかをAIにフェ 日本は約200~300億人。 ルミ推定してもらった。そうすると、 でいった人たちの集積だ。歴史の重 のではない。そこで生まれて、 ても、それは再現できないのか。 たのだろう。なぜ、お金と熱意があっ がないのだけど、一体どこから生まれ 楽しむことができる。 いる街はでき上がっている て、有史以来の日本の総人口は今まで 街は生きている人たちだけが作る その差は、文化の差としか言いよう もっともっとたくさんの人たちの 街に文化に現れる。そう考え 今は



度合いを意識する出張になった。

Profile

2002年講談社入社。週刊モーニング編集部にて、『ドラゴン桜』(三田紀房)、『働きマン』 (安野モヨコ)、『宇宙兄弟』 (小山宙哉) などの編集を担当する。2012年講談社退社後、 クリエイターのエージェント会社、コルクを創業。著名作家陣とエージェント契約を結び、 作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形 の先にあるインターネット時代のエンターテイメントのモデル構築を目指している。